

日本語能力考试

1级 读解分类习题集

[日] 大阪 YWCA 专门学校 /
冈本牧子、氏原庸子、樱井大辅 编著

パターンで学ぶ

日本語能力試験

1级 読解問題集



上海译文出版社

日本語能力考试

1级 读解分类习题集

[日] 大阪YWCA专门学校 /
冈本牧子、氏原庸子、樱井大辅 编著

パターンで学ぶ

日本語能力試験

1级 読解問題集

图书在版编目(CIP)数据

日语能力考试1级 读解分类习题集 / (日)冈本牧子,
(日)氏原庸子,(日)樱井大辅编著. —上海:上海译文出版社,2009.1

ISBN 978-7-5327-4662-0

I. 日… II. ①冈…②氏…③樱… III. 日语—阅读教学—水平考试—习题 IV. H369.4-44

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2008)第 162021 号

《パターンで学ぶ 日本語能力試験 1 級 読解問題集》

©大阪 YWCA 専門学校 2005

All rights reserved.

Original Japanese edition published by J-Research Press.

Chinese character translation rights

© 2008 Shanghai Translation Publishing House

Arranged with J-Research Press.

图字: 09-2008-538 号

本书中文简体字专有出版版权归本社独家所有,
非经本社同意不得连载、摘编或复制

日语能力考试1级 读解分类习题集

[日]冈本牧子 氏原庸子 樱井大辅编著

上海世纪出版股份有限公司

译文出版社出版、发行

网址: www.yiwen.com.cn

200001 上海福建中路 193 号 www.ewen.cc

全国新华书店经销

上海宝山译文印刷厂印刷

开本 787×1092 1/16 印张 10 字数 158,000

2009 年 1 月第 1 版 2009 年 1 月第 1 次印刷

印数: 0,001-4,200 册

ISBN 978-7-5327-4662-0/H·863

定价: 22.00 元

如有质量问题,请与承印厂质量科联系。T: 021-56433744

はじめに

本書は、日本語能力試験1級合格を目指す学習者が読解能力を身につけ、また向上させることを目的としている。

編纂に際しては、独立行政法人国際交流基金・(財)日本国際教育協会から出されている『日本語能力試験出題基準 [改訂版]』に因るところが大きい。『出題基準』では、「読めないということは、(読み手自身がテキストと相互交渉を行う)その相互交渉のどこかで、問題があって、交渉が十分に成立しないということである」と言っている。その相互交渉時の問題点とは何か、それを克服するにはどうしたらいいかに焦点を当て、本書では、読解能力の中の「テキスト・タイプ」と「読みのスキル」に重点を置くこととした。

その結果、テキスト(=読解文)をパターンに分け、第1章ではタスク(=設問)を中心に、第2章では文章の種別に問題数をこなすことによって、いろいろなテキストに慣れると同時に、自然に問題を解くスキル(=技術)を身につけられるように構成してある。また、第3章では、それらの総合的な力を見るため、模擬試験を付した。

このように、本書は3部構成になっており、第1章で「タスク」「読みのスキル」、第2章で「文の構成」「テキスト・タイプ」と順に読解能力をつけ、第3章の模擬試験で実力が計れるようになっており、短期間で読解力が身につけられる工夫がされている。

さらに、付録において、詳しい解説と解答を知ることができる。したがって、独学で日本語能力試験合格を目指す学習者にも、また、「読解」をどのように指導すればいいのかと悩んでいる日本語指導者の方々にも役立てていただけると信じている。

なお、本書で扱う「短文」とは、200～700字前後の文であり、「長文」とは、700～1600字前後の文とした。

最後に本書の出版に際し、ご尽力を頂いた編集部の方々に感謝を述べると共に、試作問題を解き、貴重な意見を聞かせてくれた大阪YWCA専門学校日本語学科の学生たちにも感謝したい。

2005年2月

大阪YWCA専門学校日本語学科

岡本牧子

氏原庸子

桜井大輔

この本について

●構成

第1章 短文問題

(200～700字前後の文)

第○課〈タスク名〉 〈課の内容・ねらい〉

- 《例題・問い》 各課に二つの例題と問いがある
《パターン》 例題を解くための型
《解き方》 例題をパターンを使って
実際にどのように解くかの
詳しい説明
《やってみよう》 パターンに合わせた類似問題
《練習》 その課のタスクに合わせた練習

第2章 長文問題

(700～1600字前後の文)

第○課〈テキストの種類〉

- 《例題・問い》 各課に二つの例題と
問いがある
《パターン》 テキストによって
異なる二つの流れ
《解き方》 パターンの流れに
応じた例題の解き方
の詳しい説明
《練習》 その課のテキストに
合わせた練習

第3章 模擬試験

- 総合的な読解力が自己診断できる
- 所要時間と採点法を明示

付録〈解答・解説〉

- 「やってみよう」と「練習」の解答と
解説がある
- 短文編の1、5、6、8、9課には、基本
的な文法解説やその課を解くのに
必要な用語が付してある

●この本に使われている「主語・述語」と「主部・述部」の意味

主語…述語の表す意味(種類・属性・状態・情意・存在・動作・作用・変化など)の主体を示すもの。(例:森には)
述語…事柄を説明したり、判断を加えたり、まとめたりして、そこで文を閉じたり、後に続けたりする部分。
一般に動詞、名詞、形容詞で表されることば。(例:あふれていた)

主部・述部…主語や述語を含む文のまとまり。

(例) 《豊かな水と太陽の光に恵まれた森には》、《多彩な生命があふれていた。》
(主部) (述部)

- 各章の始めに、使い方の説明があります。
- 本文のふりがなは原文のままではなく、1級レベルに合わせてつけてあります。

はじめに
この本について

第1章 短文問題

第1課 指示語	2
第2課 事実関係	8
第3課 意味解釈	14
第4課 展開予測	20
第5課 推理	27
第6課 理由・根拠	33
第7課 内容把握	39
第8課 主張・意見	45
第9課 グラフ	52
第10課 手紙・メール	59

第2章 長文問題

第1課 解説	67
第2課 論説	76
第3課 随筆	83
第4課 小説	90
第5課 紀行・ルポ	98

第3章 模擬試験

第1回	107
第2回	118

付録〈解答・解説〉 131

第1章 短文問題
第2章 長文問題
第3章 模擬試験

●パターンで学ぶ
日本語能力試験

1級読解問題集

目次

第1章 短文問題

設問(タスク)中心に考える

「読解問題出題基準」に準拠し、
タスク別に10課で構成されています。

短文ばかりを扱うことで、
設問の種類とその解き方に慣れることを
目的にしています。

●各課はそれぞれ、タスクによって2つのパターンで構成されています。

① 例題1を一読し、設問に目を通してください。ここで解けるようなら解いてもかまいません。



② 「パターン1」を読み、その設問をどのように解けばいいのかを理解します。



③ もう一度、文章を読み、設問を解いてください。



④ 「解き方」を参考に正誤を確認します。



⑤ 「パターン1」を応用し、類似問題「やってみよう1」にチャレンジしましょう。



⑥ 付録の「解答・解説」を参考に、正誤を確認してください。



⑦ 「パターン2」も「パターン1」と同じように練習します。



⑧ 最後に「パターン1」と「パターン2」の混合の練習問題で仕上げをし、付録「解答・解説」で正誤を確認してください。

第1課 指示語

「コ・ソ・ア」で示されていることが何をさすのか

例題1)

二歳と一歳児を抱え毎日、育児、家事に追われている。外出もままならず、唯一の息抜きは新聞を読むことだ。

先日、ご主人と息子さん二人の胃袋を預かるお母さんの投稿を読んだ。うちの姉妹もよく食べるが、子供が3人、4人といたり、兄弟となると、さぞよく食べてくれるのだろうと想像する。

私も、三食を用意するのがこんなに大変だと思っても見なかった。結婚四年目だが外で仕事をしていたので、主婦業は新米。要領も悪いのだろうが、皿洗いを含め、一日中、台所に立っているような気さえする。体調が悪い時は、もう一步も動けないし、頭も回転しなくなり、メニューも思い浮かばない日もある。

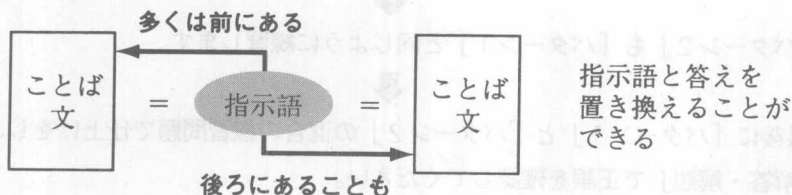
それでも、「娘たちといつまで食卓を囲めるのだろうか」と考えたり、時には片方の腕に娘を抱え、一緒に鍋の中身をのぞき込んだりしながら、今日も台所に立っている。

(「気流」2004年5月12日付読売新聞(大阪本社)朝刊による)

【問い】「こんなに」とは、何を指しているか。

- 1 子供が多く、よく食べてくれるので大変なこと
- 2 外で仕事をしているので、家事をするのが大変なこと
- 3 一日中台所に立っているような気がするほど大変なこと
- 4 腕に子供を抱えて台所に立たなくてはならなくて大変なこと

パターン1 答えが文中に現れている場合



<解き方>

「こんなに」は「今の自分」の状況（解答・解説 P.2 参照）。「自分」＝「筆者」という視点から見る。

まず前を見る。1 は、投稿を読んで感じたことなので「自分」ではないから×。2 は、働いていたのは「今」ではないので×。前にない場合は、後ろを見る。3 は、「今」の「自分（筆者）」の状況。4 は、「時には」すること。また「それでも」という接続詞から、この状況を「大変」とは考えていないことがわかり×。答えは3。

●やってみようー1

5月……若葉の季節。多くの人にとってはさわやかな季節のはじまりであろう。しかし、私にとってはそうではない。またこの季節がめぐってきたという重い気分になせられるのだ。私の花粉症は新緑のこの時季に始まり、終日、涙とくしゃみに悩まされることになる。

【問い】「この季節」とは、何を指しているか。

- | | |
|-----------|----------|
| 1 さわやかな季節 | 2 花粉症の季節 |
| 3 若葉の季節 | 4 新緑の季節 |

例題2)

試合で、ネット越しに相手をにらみ付け、派手なポーズで挑発する。練習には黙々と励むが、若手には「私の顔色をうかがうような、おつき合いじゃ意味ないよ」とびしゃり。それがコートの外では一変する。

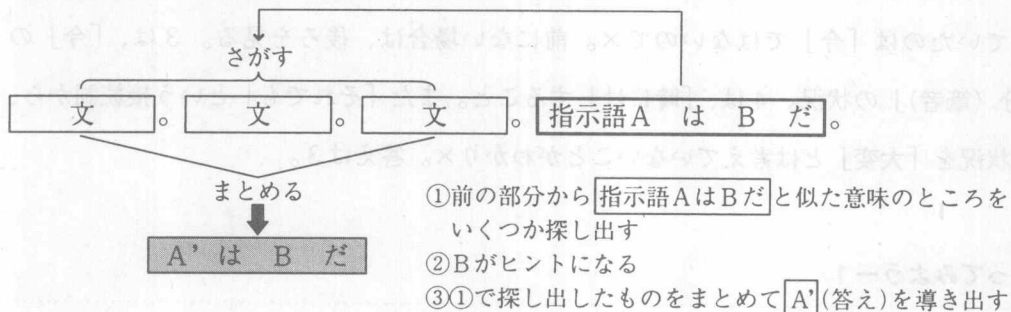
ほんやり歩いて段差につまずいたり、好きな料理の話には早口で夢中になったり…。17歳離れた高校生選手からは「お母さんみたい」。この落差が、不思議な魅力になって人を引き込んでいく。（「ひと」2004年5月15日付朝日新聞朝刊による）

【問い】「この落差」とは、どんな落差か。

- 1 試合で相手をにらんだり派手な挑発をするのに練習では黙々としていること
- 2 試合では厳しいのにふだんはのんびりしていたりやさしかったりすること

- 3 ぼんやり歩いて段差につまずいたりするのに好きな話には早口で夢中になること
- 4 「お母さんみたい」と言われるくらい17歳の高校生選手と年がちがうこと

パターン2 答えがそのまま文中に現れていない場合



＜解き方＞

「落差」とは二つのものの間にある大きな差のこと。文中での「落差」をみつける。ここでの「指示語AはBだ」は、A＝「落差」はB＝「不思議な魅力」なので、落差が魅力となる部分を探す。3行目の「それがコートの外では一変する」の「一変する」が「落差」を表していることに気づくことが大切。「それ」は、前にある「にらみつける」「挑発する」「黙々と励む」「ぴしゃりという」というコート内のことを指す。つまり、コート内と外を比べ、その差を言っているので、1と3は×。また、4は年齢差のことだが、年齢差が「魅力」というだけなら、前半部は不要になる。答えは2。

●やってみようー2

一週間の旅などは、きちんとした職場に勤めているとなかなか行けない。自営業でもなかなか一週間は休めない。それを通そうとすると、私のように無給休暇ならあるけれど、ということになるが、人生の価値をどこに見出すかということで、あとは自分次第である。しかしまた、仕事があって遊びがあるというのも真理なので、ここが難しいところなのだ。

(白鳥和也『素晴らしき自転車の旅 サイクルツーリングのすすめ』平凡社新書による)

【問い】「ここ」とは、何を指しているのか。

- 1 旅に出るために一週間休むという生き方を通すこと

- 2 仕事より遊びに人生の価値があると考えること
- 3 遊びより仕事に人生の価値があると考えること
- 4 遊びと仕事とどちらを重視するか考えること

練習1

原っぱとは、あれはいったいなんだったのだろう。原っぱはいまのきれいに整備された児童遊園の対極に位置する空間だった。いまのことばでいうならやはり「空き地」としか表現しようがないだろう。だがそこはほとんど管理されておらず、いつも土管や材木、あるいはいまでいう粗大ゴミなどが無造作に放置されていた。大人による管理がなかったから、危険といえは危険だった。しかしそんな雑駁^{ざっぱく}な場所が、かつての子どもたちにとっては最高の楽園だったのである。

(阿辻哲次『漢字道楽』講談社による)

【問い】「そこ」とあるが、どこを指すか。

- | | |
|-------|---------|
| 1 原っぱ | 2 児童遊園 |
| 3 空き地 | 4 最高の楽園 |

練習2

最近は子どもの虐待が社会問題として、大きく取りあげられるようになった。アメリカではずいぶん以前から問題視されていたが、とうとう日本もそうなったかと思う。親は子どもを慈^{いつく}しむのが当然であるのに、どうしてこんなことが起こるのかと慨嘆^{かいたん}する人もある。確かにそうだとは思いますが、神々の物語を見ると、親子の間の葛藤^{かつとう}の激しさに驚いてしまう。棄子^{すてご}の話は世界中にある、と言っていいだろう。どうしてそうなのだろう。

(河合隼雄「神々の処方箋」『考える人』2004年春号新潮社による)

【問い】「そう」とは具体的に何を指すか。

- 1 アメリカで子供の虐待が問題視されていたこと
- 2 日本で子供の虐待が起こっていること
- 3 親は子供を慈^{いつく}しむのが当然であること
- 4 物語の中に親子の葛藤^{かつとう}や棄子^{すてご}の話が多いこと

練習 3

最近では、「ら抜き言葉」や「マニュアル言葉」といわれるものが若い人の間だけでなく一般にも浸透して、それを使う人も多くなってきた。言葉は変わっていくものだというのはもちろんわかるし、若い人たちが文法などに興味がないのもわかる。しかし果たして、これでいいのだろうか。^①こんなことを言う^②と頭の古いやつだと思われるだろう。だが、あえてこう言いたい。言葉は、人に何かを伝えるものである。聞いて不自然に感じる言葉では、人に十分に伝えることができないのではないかと。

【問 1】 ①「これ」とは、何を指しているのか。

- 1 「ら抜き言葉」や「マニュアル言葉」を使う人が多いということ
- 2 「ら抜き言葉」や「マニュアル言葉」を使うことは、よくないということ
- 3 言葉はかわっていくものだということ
- 4 若い人たちが文法などに興味がないということ

【問 2】 ②「こんなこと」とは、何を指しているか。

- 1 「ら抜き言葉」や「マニュアル言葉」を使う人が多いということ
- 2 言葉はかわっていくもので、若い人は文法に興味がないということ
- 3 言葉は、人に何かを伝えるものであるということ
- 4 聞いて不自然に感じる言葉では、人に十分に伝えられないということ

練習 4

敬語はこのように、伸縮自在な使い方をしますが、これはまた外国人の悩みのタネのようです。どうしても固定してしまわないと安心ができない人がいます。あるアメリカ人は、社長用、課長用、事務員用、見習工用と、それぞれ段階わけの言い方を用意しておいて、それをパッと使って一応の成功を収めました。しかし事務員の父親用とか、課長の息子用とかいうのまでは用意してありませんから、これにはハタと困ってしまいました。彼は慨嘆^{がいたん}して、よく日本人はこんなややこしいことが言えるもんだ、いったいどう区別しているのか、と言うのです。

そこで、こう聞いてみました。車の運転をしているとき、あなたはかならず50キロとか60キロとかのスピードで走り続けるか、と。もし、道がすいていて、全体が65キロか

70キロで流れているとき、あなただけ60キロでがんばるのか。前の車がスピードを落とし、車間距離が10メートルにつまっても、やっぱり50キロで走り続けるのか……。それ
はもう、いうまでもないことでした。

(山下秀雄『日本のことばところ』講談社学術文庫による)

【問い】「それ」は何を指しているか。

- 1 交通事情にあわせてその場その場でスピードを加減すること
- 2 交通規則にあわせて、その場所で最適とされているスピードを守ること
- 3 周りの状況に流されず、自分が走りたいスピードで走り続けること
- 4 前の車がスピードを落としても、自分は守るべきスピードで走り続けること

練習 5

ペンションのお客さんと、きのこ採りにいったとき、尾根を進もうと思ってピークを
トラバースしたら、いつの間にか変な場所に出た。森の中じゃ方向もわからない。こうい
うときに対処できるのが山の人間。こいつはまずいと思って、俺はナラの大木に登って方
角を確認したよ。そしたら、感覚的にはうしろがダムで前が乗鞍なのに、実際は正反対だ
ったんだ。「お客さん、こいつはダメだ。すぐに戻れ」ってそこでやっと修正できた。

(福島立實「乗鞍〈囲炉裏話〉」『考える人』2004年春号新潮社による)

[注1] ピーク：頂上 [注2] トラバース：横切ること [注3] 乗鞍：山の名前

【問い】「こいつ」とは何を指すか。

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 ナラの木に登った俺 | 2 変な場所にいるわたしたち |
| 3 こういうとき対処できる山の人間 | 4 きのこと採りにいくわたしたち |

第2課 事実関係

＜主語述語・時間の経過＞を中心に事実関係を考える

例題1)

「住み慣れた家がいい」と一人暮らしを選んだ松野さんに、大阪市に住む長女、上村明美さん(62)は13年暮れ、^{7.1}iポット_[注1]を贈った。お茶を飲んだり薬を飲んだり、高齢者の生活にポットは必需品。ということは、ポットがきちんと毎日使われていれば、ちゃんと生活していることが分かる。逆に、使われていなければ、異常事態を示すアラームとなる。ポットが送信する情報は四人兄弟全員が携帯電話などで受信して松野さんの様子を見守っている。

ポットの使用状況を見て、(①)は(②)に電話を入れる。

「子供たちが心配するので、『達者でやっている』と心の中でいいながら、毎日決まった時刻にポットを使うようにしています。通じていると思うと安心です」と松野さん。

日常生活に溶け込み暮らしを変えた携帯電話。いたるところで、いま“ケータイ革命”が進行中だ。

(「ケータイ進化論1」2004年5月28日付産経新聞朝刊による)

[注1] iポット：一人暮らしの老人宅に設置し、お年寄りがポットをいつ使ったかについての情報を、離れて暮らす家族などの携帯電話やパソコンにネット経由で送信する「みまもりほっとライン」サービスを展開している

【問い】(①)(②)に入るものとして、どれが最も適当か。

- | | | | |
|---------|-------|---------|-------|
| 1 ①高齢者 | ②松野さん | 2 ①松野さん | ②四人兄弟 |
| 3 ①松野さん | ②上村さん | 4 ①上村さん | ②松野さん |

パターン1

①問われていることを中心に、場面の構成に注意する

②下の表をもとに、文章を整理する

いつ	どこで	だれが	なぜ	どうした
時	場所	登場人物	理由・目的	出来事

<解き方>

登場人物は、上村さん、松野さん、四人兄弟である。上村さんは松野さんにポットを贈った。目的は見守るため。したがって、ポットを使う人と電話を受ける人は同じ松野さんであるから2、3は×。松野さん＝高齢者なので1は×。答えは4。

●やってみようー1

「俺は男だ。男がそんな女々しいことができるか」とは主人の口癖。とにかく料理はまったくできないし、好き嫌いは多いし、掃除は腰痛のためできない。私が「弱い女に高いところや力のいる仕事をさせるの?」と言えば、「もう男じゃなく老人と見てくれ」なんて変わり身の早さにも腹が立つ。

ある夜「私、先に寝るから、お休み」と言っても返事が返ってこない。「お休みくらい言ったら?」と言う私に返ってきた言葉が「言わん」と一言。たった一字増やして「お休み」と言ってくれば、聞く耳にも優しく響くのに。ああ、これがつい最近金婚式を済ませた夫婦だろうかと思えなくなる。

友人に愚痴をこぼすと「かわいいじゃない。^[注1]駄々っ子みたいで」と言われた。そうか、主人と思うから腹が立つんだと目からうろこが落ちた。

これからは大きな駄々っ子の母として強く生きていかなくては、と思う半面、もう年だからいつまで大きな子供の母が務まるだろうかと不安にもなる。どうか成長してくださいね、駄々っ子さん。

(「きのうきょう」2004年5月14日付産経新聞朝刊による)

[注1] 駄々っ子：あまえて、人の言うことをきかず、自分のわがままを通そうとする子ども

【問い】「不安にもなる」とあるが、何が不安なのか。

- 1 筆者は年をとっていくが、夫は子供のようなので面倒が見られるかどうか
- 2 筆者は年をとっていくが、子供はだんだん大きくなるので面倒が見られるかどうか
- 3 筆者も年をとっていくし、夫も年をとって老人になるので面倒が見られるかどうか
- 4 筆者も年をとっていくが、友人の子供が駄々っ子のように面倒が見られるかどうか

例題 2)

先日、会社の入社試験面接員を務めた。社会、経済、政治など各部のデスククラスが3人1組になり、各組が30人近い受験者とやりとりした。1人約10分間。自分の判断が受験者の一生に何らかの影響を与えらると思うと、こちらも緊張した。面接がすべて終わったら、ぐったりした。

一生懸命な受験者を見ていて、23年前に面接員と向かい合っていた自分を思い出した。身上書の趣味欄に書いた「国鉄主要駅の構内配線図の収集と分析」がよほど珍しかったようで、「これは何?」「一体、何が面白いの?」と繰り返し尋ねられた。「駅の機能美と秩序美が詰まったものです」などと熱弁をふるったが、なかなか分かってもらえなかった。変わった趣味と体力がありそうなことだけが印象に残っただろうと思う。

15～34歳で仕事をせず、学生でもない「ニート」と呼ばれる若者が全国に52万人もいるという。エネルギーがあるのに、打ち込むものがないのはもったいない。「毎日、わくわくしながら仕事をしたい」と答えた受験者が頼もしく見えた。

(「憂楽帳」2004年10月13日付毎日新聞東京版夕刊による)

【問い】「毎日、わくわくしながら仕事をしたい」と答えたのはだれか。

- 1 入社試験の30人近い受験者
- 2 筆者が面接員を務めた受験者
- 3 変わった趣味と体力がありそうな受験者
- 4 エネルギーがあるのに打ち込むものがない受験者

パターン2

①時の流れは大きく分けて、次の3つである。どのパターンになるかを考える

a. 現在 ⇒ 過去 ⇒ 現在

b. 現在 ⇒ 過去1 (近い過去) ⇒ 過去2 (遠い過去) ⇒ 現在

c. 過去2 (遠い過去) ⇒ 過去1 (近い過去) ⇒ 現在

②過去に変化する時のキーワード<思い出した・～たことがある・聞いたことがある・記憶がよみがえった・かつて～・その昔 など>をさがす

<解き方>

始めから「思い出した」(5行目)までが現在。次から「印象に残っただろうと思う」(10行目)までが過去、「15～34歳」から最後までが現在となっているので、パターンは時の流れのaである。現在の自分(筆者)は入社試験面接員をしている。「わくわくしながら仕事をしたい」と答えたのは、自分が面接した受験者。1は30人全員が答えたのではないので×。4は最近の若者の特徴であって、頼もしい受験者ではないので×。3は筆者自身のことなので×。答えは2。

●やってみようー2

「たっくんのはウルトラマンで、まさとはアンパンマンなんだよ」3歳になる息子が保育園から帰ってくるなり、不満そうにこう叫んだ。保育園に持っていくかばんの模様のことである。お母さんたちはわが子のかばんに最近流行りのアニメキャラクターを刺繡ししゅうしているのだ。一方、うちの子のは、スーパーで買ってきた無地のデニムで、申し訳程度に汽車のアップリケがすみっこにしてあるだけのものだ。それが気に入らないらしい。「いいじゃない。これ、かっこいいよ」といいながら、ふと幼い頃の記憶がよみがえった。

母は手先が器用で、服やかばんによく刺繡をしてくれた。「今度はウサギさん」「私のはお姫様」。妹と競って頼むと「はい、はい」とほほえみ、2、3日後にはでき上がっていた。それらの作品を学校に持っていくのが子ども心に誇らしく嬉しかったことを思い出し、自分で作ってみることにした。

あの器用な母から、なぜこんなに不器用な娘が生まれたのかと思えるほどへたくそで、今まで手芸はできるだけ避けてきたが、「息子のためだ、いっちょ頑張るか」と材料を買ってきたものの、作業は遅々として進まず、何度もやり直しをする私を見て夫が「買ってきたほうがいいんじゃないか」と不安げな様子さぶさぶ。何度か挫折しかけたが、2週間後、ついに完成した。う～ん、ちょっと、コオロギみたいだけど、ウルトラマンに見えるよね…。

【問い】「自分」とは、だれのことか。

1 筆者の妹

2 筆者の母